

令和7年度

学校評価報告書



綾瀬市立天台小学校

児童309名、教職員31名、保護者313名 対象(グラフ中の数字は、百分率)

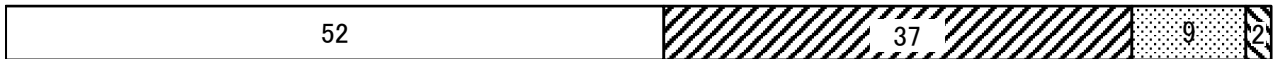
□ と思う ▨ ややと思う ▩ あまりそう思わない ▧ そう思わない ■ わからない

1 学校は、「よく考え、進んで取り組む子」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。

学校の取組

本校では、「学びを楽しむ子をめざして」という研究主題を掲げ、児童たちが「やってみたい」という気持ちをもてるような授業改善に取り組んでいます。単元を通した課題を提示し、子どもたちが見通しを持って学習に取り組めるようにしたり、授業では一人で考える時間を十分に確保して、友達と伝え合う時間、学習の振り返りをする時間を取り入れたりしながら進んで学習に取り組めるように努めています。

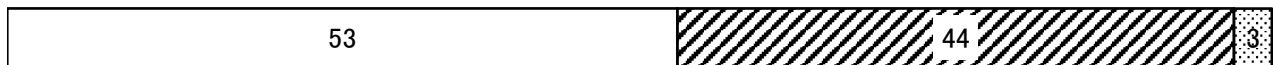
児童 設問 「進んで学習に取り組んだ。」



保護者 設問 「子どもは、意欲的に学習に取り組んでいる。」



教職員 設問 「『よく考え、進んで取り組む子』を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。」



今後に向けて

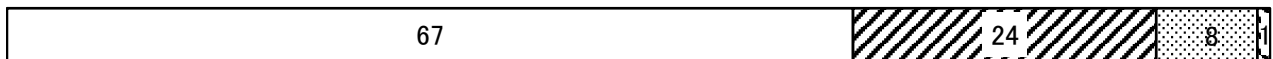
学習意欲については、児童の自己評価は肯定的な評価が高い傾向にあり、意欲をもって学習に取り組んでいるといえます。これは、校内研究を中心とした授業改善の成果といえます。一方で、保護者の評価では、児童との評価に差が見られます。この要因の一つとして、学校での意欲的な姿が保護者に目に見える形で届いていないということが考えられます。学校での姿を伝える工夫をしたり、児童たちが学校で取り組んだことを家庭でも続けてやりたいと思えるような授業・課題づくりをし、学校での意欲が家庭にも波及するように工夫をしていきます。

2 児童は、運動会等の学校行事や委員会、学級の係活動に積極的に参加している。

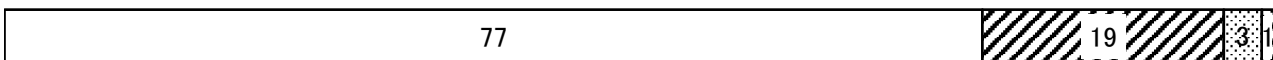
学校の取組

本校では、学校行事において児童一人ひとりがめあてをもつことで、主体的に取り組むことができると考え、指導に当たっています。そのため、活動のねらいを明確にするとともに、個に応じた支援を大切にしています。また、係活動や委員会活動においても、児童が自ら考え、実践できるようにし、達成感を得られるようにしています。さらに、キャリアパスポートも活用し、活動後にはめあての振り返りを行い、次の活動につなげることで、自分の成長を実感できるようにしています。

児童 設問 「係の仕事や運動会などの活動に一生けんめい取り組んだ。」



保護者 設問 「子どもは、運動会などの行事に一生けんめい取り組んでいる。」



今後に向けて

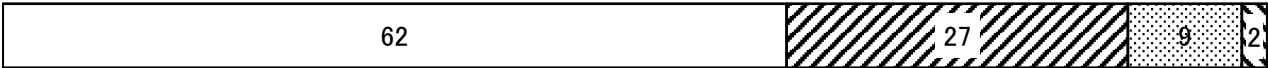
学校行事に意欲的に取り組んでいる様子が分かります。児童が自分の役割や責任を自覚し、めあてをもって主体的に取り組むことができるよう、達成感が味わえる学校行事を工夫していきます。その際、活動のねらいを共有し、児童一人ひとりの思いや考えを大切にしながら、個に応じた支援を行っていきます。また、毎日の学校生活においても、児童が自ら考え行動し、仲間と協力しながら物事に取り組む力を育て、主体性や責任感を高めていくとともに、次の活動への意欲につなげられるような指導を継続していきます。

3 学校は、「助け合う子」を育てる指導を積極的に行っている。

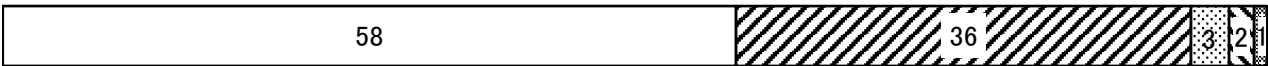
学校の取組

本校では「助け合う子」を育てるために異学年交流に取り組んだり、児童会目標「笑顔あふれる天台小～広めよう ありがとうのわ」を達成するために児童会を中心に『ありがとうバナナおに』や『天台クエスト』を実施するなど各委員会でも児童が創意工夫を凝らした様々な企画をしたりしています。また、道徳教育においては、思いやりのある子の育成を重点目標とし、道徳の授業を要として全教育活動で意識をもって取り組んでいます。職員は、児童の思いやりある言動を賞賛し、望ましい言動を広めています。

児童 設問 「友だちと助け合って仲よく生活できた。」



保護者 設問 「子どもは、友だちと仲よく生活している。」



教職員 設問 「『助け合う子』を育てる指導を積極的に行っている。」



今後に向けて

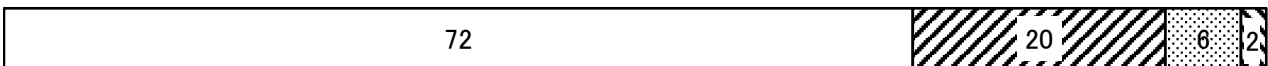
概ね肯定的な評価になっています。児童に思いやりの心を育てることを意識して異学年交流や道徳授業を継続的に行っていることで、相手の気持ちを思いやることのできる児童が育っていると考えられます。また、児童会活動での取り組みは児童が主体となっているため、より自然な形で全校児童に思いやりが広まっているのではないかと考えています。本校の職員と児童とで育ててきた思いやりの心が今後も続いていくよう、全教育活動を通して指導していきます。

4 児童は、友人や先生との学校生活に満足している。

学校の取組

本校では、児童に関する情報交換を密にし、児童理解に努め、教職員全体で共通理解に基づいた指導に当たっています。そして、毎月スクールアンケートを実施し、いじめの早期発見と再発防止に努めています。令和6年度からはサポートルームアシスタント(SRA)が、教室で過ごすことに困難を感じている児童に対応しています。学校が児童にとって居心地がよく、安心して自分の思いを表現できる場であることを前提として、充足感に満ちた活動ができるように、教職員は児童の気持ちに寄り添ってがんばりを褒めたり励ましたりするようにしています。

児童 設問 「学校は楽しかった。」



今後に向けて

児童の9割弱が概ね満足していると回答している一方で、約1割の児童が悩みや不安を抱えているという現実があります。今後も支援体制の更なる充実を図りながら、児童を取り巻く人間関係を注視するとともに、一人ひとりの児童の思いが汲み取れるように見守っていきます。そして全ての児童にとって心から「楽しい」と思えるような学校を目指していきます。

5 学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。

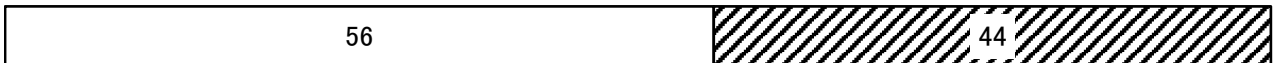
学校の取組

本校では、「いじめ防止の取り組み」について懇談会で担任から保護者に説明しています。その中で、いじめ未然防止の取り組みとして、温かい学校作りに取り組んでいることや毎月スクールアンケートを実施していることなどを伝えていきます。スクールアンケートでは、気になる記述が見られた時には担任が面談をし、児童の声をしっかりと聞いて気持ちを受け止め、関係児童に対して適切な指導や助言を行っています。その際、必要に応じて周囲からも聞き取りや情報収集を行って、より正確な実態把握に努めています。また、いじめ防止対策会議を定期的に行っていますが、いじめ事案発生時は必要の都度、緊急開催しています。

保護者 設問 「学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。」



教職員 設問 「いじめを早期発見をし、再発防止するための取組を行っている。」



今後に向けて

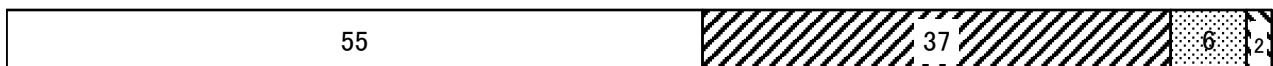
保護者からは「わからない」という回答が3割近くあります。また、取り組みが不十分と感じている保護者の割合も1割以上です。本校では年度初めの職員会議で、「いじめ防止基本方針」を職員全員で確認し、いじめは絶対に許さないという学校としての強い姿勢を共有しています。今後もスクールアンケートの実施やいじめ防止対策委員会の設置について、改めて周知していきます。児童や保護者の不安や悩みに対して常に応じられるよう、担任だけでなく教育相談コーディネーターやスクールカウンセラー等の存在を周知し、引き続き教育相談に応じる呼びかけを行っていくと同時に児童理解を深め、一人ひとりを大切にする学校・学級づくりを目指していきます。

6 学校は、「健康な子」を育てる指導に積極的に取り組んでいる。

学校の取組

本校では、朝の健康観察に朝食や睡眠についての項目を設け、基本的な生活習慣の大切さを意識させるようにしています。また、保健学習やS学活、身体計測時の養護教諭の話等で心と体の健康についての指導を行っています。感染症対策も継続的に行っており、手洗いや換気と呼びかけています。校内で感染症が流行している時は、給食の時間に前向きで黙食するように呼びかけたりもします。様々な学習や保健便りを通して自分の健康を守る大切さを指導しています。

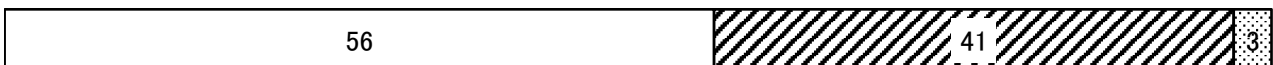
児童 設問 「健康や安全に気をつけて、元気に生活できた。」



保護者 設問 「子どもは、健康や安全に気をつけて生活している。」



教職員 設問 「『健康な子』を育てる指導に積極的に取り組んでいる。」



今後に向けて

概ね健康な生活を送っていると捉えています。生活リズム大作戦や健康観察の結果からは、毎日、朝食を食べている児童が多いという結果が得られています。今後も継続的に保健だより等を中心に「早寝、朝日、朝ごはん」の習慣がしっかりと身につくように指導するとともに、児童が自らの健康に関心を持ち、めあてをもって運動する意欲を持てるような取組を計画・実践していきます。保護者から登下校の様子を心配する声がきかれたり、ゲームのやり過ぎ等で授業に集中できない様子も見られたりするので、児童の健康・安全を守るために、お便りや懇談会、面談等で家庭とさらに連携していきます。

7 学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。

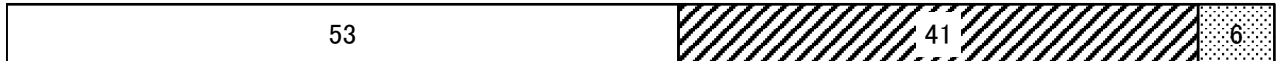
学校の取組

本校では、自分の身を守るための行動様式を身につけさせるために、火災や地震を想定した避難訓練や交通安全教室を実施しています。また不審者対応の退避訓練も行っています。教職員による施設・設備の安全点検も実施しており、点検時以外でも不具合箇所が見つかった場合に提出できる用紙を準備し、速やかに修理・修繕を行えるような仕組みを整え、職員全体で安全確保に努めています。

教職員 設問 「児童の安全のための指導に取り組んでいる。」



教職員 設問 「児童が安全に過ごせるように施設・設備を定期的に点検している。」



今後に向けて

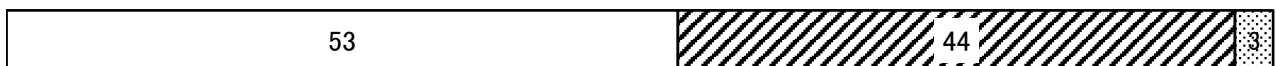
教職員の多くが児童の安全を守るための取組を行っているとは回答しています。安全についての指導の後には児童の変容を見取ったり課題を見出したりしながら、児童の安全を最優先に考えていきます。交通安全教室や避難訓練ばかりではなく、道徳や学級活動の時間などにおいて学校生活のあらゆる場面をとらえて安全に過ごすための行動や命の大切さを学ぶ機会を増やしていきます。

8 学校は、児童に応じた支援の工夫をしている。

学校の取組

本校では教育相談コーディネーターが中心となり、担任や職員だけでなく、外部の相談機関とも連携して児童の困り感が少しでも軽減できるような手立てを考えるようにしています。毎週水曜日にはスクールカウンセラーによる相談を受付けています。教職員もいつでも保護者や児童が相談できる体制を取っています。また、サポートルームでは、サポートルームアシスタントが午前中に個別支援が必要な児童に支援を行っています。

教職員 設問 「一人ひとりの児童に応じたきめ細かな支援の工夫をしている。」



今後に向けて

多くの教職員が一人ひとりの児童に応じた支援の工夫を具体的に実践しています。支援教育についての理解は深まってきていると考えています。しかし一方で配慮が行届かなかったのではないかと感じている部分があることは課題です。個のニーズに対し、今後も教職員同士で情報交換を密にし、連携を図って、組織的により多くの目で見守っていきます。また、スクールカウンセラーの役割が周知されるに従って、保護者や児童のニーズも増えています。引き続きスクールカウンセラーや外部機関と連携しながら、個に応じた支援体制の充実を考えていきます。

9 校長を中心とした運営組織になっている。

学校の取組

本校では、職員会議やカリキュラム・マネジメント会議を通して全教職員の共通理解を図る取組を重視しつつ、校長の学校教育方針を受けて、総括教諭を中心に学校教育目標を踏まえた指導の重点の具現化や改善策をグループ会議、企画会議で検討しています。教職員一人ひとりが学校の担い手であるという自覚を持ち、各グループが連携を図りながら学校運営にあたっています。

教職員 設問 「校長の経営ビジョンを受け、各グループの役割が明確であり、有効に機能している。」



今後に向けて

学校運営について総括教諭をリーダーとした各グループで計画・立案されたものが、企画会議、職員会議を経て実践され、ふり返りをもとに新たな課題を見出し、改善に向けて新たな計画を立てるというサイクルを徹底し、よりよい学校となるように今後も全教職員で取り組んでいきます。各グループの連携を図りながら、今後も地域や家庭に信頼される学校づくりをめざして運営を行っていきます。

10 学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。

学校の取組

本校では、「学びを楽しむ子をめざして」という研究主題を掲げ、児童たちが「やってみたい」という気持ちをもてるような授業改善に取り組んでいます。研究授業後は、グループごとに話し合いを行い主題に沿った授業であったかどうかを協議し、実践力を高めています。また、ICT機器の研修や児童の指導や支援に関わるミニ研修等を行っています。

教職員 設問 「教職員の一致した校内研究体制が図られている。」



教職員 設問 「目標の達成と指導力の向上のために、研究・研修に取り組んでいる。」



今後に向けて

児童が主体的・能動的に発見したことや考えたことを伝え合って取り組めるような学習の場を目指します。そのために、今一度、目指すべき児童像を職員全体で共通理解し、校内研究に取り組んでいきます。また、引き続きICT機器を使った授業の研修や各々が得意とすることを互いに共有しあうようなミニ研修の機会を設け、指導力の向上に努めていきます。

1 1 学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。

学校の取組

本校では、児童の情報交換の機会を多く設けて、児童理解を図るように努めています。児童が進級する際に行う学年間の引き継ぎ、月一回実施しているスクールアンケート、会議等での児童情報の共有など、児童が困っていることについて職員全員で共通理解を図るようにしています。また、各学年で学年目標を設定するなどして児童の実態に合わせた行事、授業、指導・支援を考えています。

保護者 設問 「学校は、児童のよりよい成長をめざした指導をしている。」



教職員 設問 「必要な情報を収集し、職員間で情報を共有し、よりよい児童の成長のために役立っている。」



今後に向けて

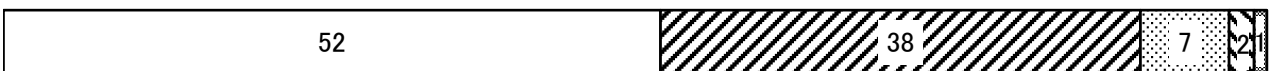
概ね肯定的な評価になっています。これからもより一層児童の実態や課題を把握し、共通理解のもと教職員一丸となって、児童が有意義な学校生活を送れるよう指導・支援にあたっていきます。そのために、学校運営や教育活動に関わってくださる家庭や地域の方々との連携を密にするとともに、学校運営協議会を通していろいろな情報交換を行いながら、よりよい教育活動に努めていきます。

1 2 学校は、保護者等に適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。

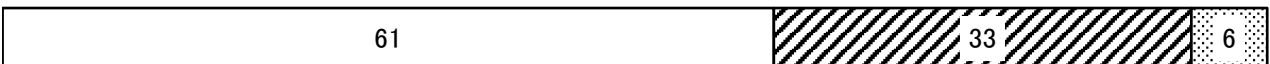
学校の取組

本校では、学校だより、学年だより、保健だよりを月一回発行し、家庭・地域に向けて学校の取組や児童の様子を継続的にお知らせしています。また、懇談会や家庭訪問、個別面談などを通して、保護者と丁寧に情報を共有し、本校の教育活動について理解を深めていただけるよう努めています。

保護者 設問 「懇談会や学校・学年便り等で、学校の様子を知ることができている。」



教職員 設問 「懇談・訪問・相談・便り・電話連絡等で、家庭とのきめ細やかな連携を図っている。」



今後に向けて

学校の取組に対して保護者の肯定的な評価が多く見られました。学校と家庭・地域が連携してこそ、教育の効果は高まると考えています。今後も、保護者や地域との連携を一層図り、学校・家庭・地域が互いに協力し合いながら、児童の健やかな成長を支える体制づくりを進めていきます。そのために、双方向のコミュニケーションを大切にし、信頼関係を基盤とした教育活動の充実を目指していきます。